女教師 彩花二十四歳

第二巻

父兄参観日に仮装する女教師

海老沢 薫 著

内容

■著作権について
■まえがき
■第一章　父兄参観日に女教師が着る衣装
■海老沢薫ＢＬＯＧ
■海老沢薫Ｗｅｂ連載小説
※海老沢薫ＢＬＯＧ
・・・最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。
https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/

■著作権について

「**女教師　彩花二十四歳　第二巻　父兄参観日に仮装する女教師**」（以下本書と表記する）の著作権は【海老沢薫】にあります。

・本書のすべての内容は、日本の著作権法、及び国際条約によって保護されています。

・「海老沢薫」が事前に書面をもって許可した場合を除き、本書の一部、または全部を、あらゆるデータ蓄積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー）により複製、流用、転載、転売することを固く禁じます。

・著作権の侵害につきましては、著作権法第119条などの罰則がありますのでご注意ください。

■まえがき

放課後の教室でクラス委員の智子達からイジメを受けていた麻理絵を、体を張って救った新米女教師の彩花は、代わりに自らが智子達の標的にされてしまう。

弱みを握られた彩花は、必然的に生徒である智子達のどんな命令にも従わざるを得なくなり、教師として葛藤する日々が始まった。

そうして、彩花が担任になって初めての父兄参観日が近づく頃、智子から一通のメールが届き、そこには父兄参観日で実行しなければならない驚愕の命令が記されていたのだった。

父兄参観日の数日前、智子達から彩花の自宅に送られてきた小包の中には、彩花が父兄参観日に身に纏う衣装などが入っていた。

嘘でしょ・・・。衣装を見た彩花は、父兄参観日が自分にとって大変な一日になる事を予感し怯えた。

そしてついに訪れた父兄参観日当日、教員用トイレで衣装に着替えた彩花は、智子達から与えられた命令の記された台本を持って、大勢の父兄達が集まる教室に向かった。

教室を埋め尽くす生徒や父兄が唖然とした面持ちで見つめる中、彩花は羞恥に顔を紅く染めながらも、自らの弱みを握る智子達が用意した台本通りに授業を進めていく。

やがて、父兄参観日の教室には前代未聞の衝撃の授業風景が展開されていくのだった。

■第一章

父兄参観日に女教師が着る衣装

彩花が、放課後の教室でクラスメート三人から数日が過ぎようとしていた。イジメを受けていた麻理絵を救った日から彩花の携帯には毎日のように智子達からメールが送られてきていた。そこには智子達からの命令が記され、毎回必ず、あの日撮影された彩花の恥ずかしい動画の一部が編集されたファイルが添付されていた。

クラス委員の智子達は本気で担任の新米女教師の彩花の事を奴隷化しようとしていたのだ。智子達の命令は、彩花が学校に着て行く下着も含めた毎日の服装についての細かな指示に始まり、他の生徒や教師達に見つからない場所での露出行為など様々だった。

智子達に自らの教師生命さえ左右しかねない決定的な弱みを握られてしまった彩花は、生徒である彼女達にもはや逆らう事もできず、

動画を削除する計画を練りながらも、それらの命令に従い続けるしかなかった。

そんなある夜、智子から送られてきたメールを読んだ彩花は、その内容に愕然とした。なんと彼女達は来週行われる父兄参観日に彩花に羞恥プレイをさせようとしてきたのだ。メールには父兄参観日当日に彩花が着る服、下着について細かな指示が記され、それらは後日彩花の自宅に届けられると書かれていた。

さらに、父兄参観日で行う授業内容についてのセリフの一つ一つまでが細かに記されてあった。

も、そのセリフの数々に言葉を失った。一体、彼女達はどれだけ私に恥を掻かせたら気が済むの・・・。

こんな事言えるわけないわ・・・。彩花はメールに散りばめられたあまりに卑猥なセリフに、智子達が計画している羞恥プレイをメールの内容から推察した彩花は、自分の受け持つクラスの生徒達だけでなく、その父兄達の前で

まで辱めを受けなければならない事に絶望的な気持ちになった。

メールの最後にはいつもの殺し文句が動画ファイルと共に添えられてあった。

『もしも少しでも命令に逆らったら、すぐに先生の恥ずかしい動画をネット上にばら撒きますから覚悟してくださいね』

添付されている動画は、これまで送られてきたメールで何度か少しだけ見て、そのおぞましい内容は十分に理解していた。だから、彩花は恐くてもう動画ファイルを開いて観る事もできなくなっていた。

やるしかないんだわ・・・。智子達にあの動画を削除させるまでは、どんな屈辱的な命令でも従い続けるしかない事を彩花は改めて認識させられ、父兄参観日に向けて覚悟を決めるしかなかった。

父兄参観日当日、彩花は教員用の女子トイレの鏡の前で想像以上の羞恥に喘いでいた。

二日前、彩花の自宅に届いた小包の中には彩花が父兄参観部に着る服と下着などが入っていた。すぐに自宅でそれを試着した彩花は、そのあまりに教師としてふさわしくない破廉恥な恰好に震え、さすがに自宅から学校までその恰好で登校することは憚られ、校内の職員用女子トイレの個室で、どうにか智子達に命じられた衣装に着替えたのだった。

トイレの鏡に映る彩花の姿は、上半身は白い半袖ブラウスを纏っていたが、その生地は薄く中に付けているピンク色のブラジャーが透けて見えてしまっていた。そして下半身には股下二センチ程の黄色い超ミニスカートを穿いていた。少しでも屈もうものなら、中に穿いているパンティが見えてしまうのは間違いなく、彩花のスラッと伸びた綺麗な生足が太股の付け根まで丸出しになっていた。そして、その中に穿いているパンティはブラと同じピンク色で、サイドは紐で結んで留めるタイプになっており、前はレース生地で後ろは

Tバックになった、聖職者である女教師にはとてもふさわしくない、あまりにセクシーなカートが少しでも捲れたりしたなら、きっとお尻や下腹部に生えた恥毛が露わになってしまうだろう。そう思うと、彩花はまるで生きた心地がしなかった。

そして彩花はもう一つ、智子達から送られてきた小包の中に入っていたあるモノを身に付けていたのだった。それは彩花にとって、このセクシーな衣装以上に気がかりなモノで、今日の父兄参観日において、智子達の動向次第では爆弾にもなりかねないモノだった。もし、その爆弾が授業中に爆発するような事であれば、父兄や生徒達の前でどれほどの生き恥を晒す事になるのか、彩花は想像しただけで身の竦む思いがした。

絶対に乗りきって見せる・・・。彩花は鏡に映る自分に向かってそう強く言い聞かせると、ついに覚悟を決めて教員用の女子トイレ

を出て、自分が学校まで着て来た服や下着を紙袋に入れてロッカーに片づけると、生徒達の待つ三階の教室へと向かった。

彩花が教室の扉を開けると、そこにはいつもと違う風景が広がっていた。教室の後ろ側の窓際から廊下側までカッチリした正装姿の父兄達が並んで立っており、生徒達もいつもより少し緊張気味な様子だった。

彩花が教室に現れると、生徒や父兄達は皆一様に驚きの表情を見せた後、その視線は彩花の白いブラウスの奥に透けた下着や、太股の付け根まで剥き出しになった超ミニのスカートの裾に降り注がれた。

あぁ、みんなそんなに見ないで・・・。彩花は教室に入ってすぐに激しい羞恥に襲われ、体を硬直させてしまった。

「先生どうしちゃったんだろ。今日の恰好やばくない？」

「ブラも透けてるし、パンティだって見えそうじゃない。いつもならあんな恰好絶対しないのに、父兄参観だから張り切ってるのかなぁ」

「でもあんな恰好されたら授業に集中できないよね」

教室の前の方に座る女子生徒達の囁き合う声が聞こえると、教壇に立った彩花はすでに顔を紅く染め上げていた。

「彩花ちゃんて、あんな派手な色のブラしてたんだぁ」

「やっべぇ、たまんねぇ。後ろに母ちゃんいるのにアソコ勃ってきたぁ」

「彩花ちゃんの脚綺麗だなぁ。舐めてみてぇ」

教卓の近くに座る男子生徒達の囁く声が、彩花の羞恥心をさらに煽り、彩花は自らが生徒達の性的対象になってしまっている事に怯えた。

「そ、それでは今から三年二組のホームルームを始めたいと思います。本日は父兄参観日

ですが、み、みんな、あんまり緊張しないで普段通りの姿を見せてね」

彩花は教卓に置いたノートに書かれたセリフを声を上ずらせながら読み上げた。

昨夜、彩花は自宅で智子からメールで送られてきた父兄参観日に実行しなければならない詳細な指示内容を、ノートに書き写していた。智子からの指示内容は、授業の進行から彩花が言うセリフまで事細かに記され、生徒達の間を歩き回るタイミングまで書かれてあった。それらを全て間違えないように実行しなければ、智子達に握られている恥ずかしい動画を公にされてしまうことになり、彩花は智子の指示内容を一言一句洩らさず必死にノートに書き写して授業に望んでいたのだ。いわばそのノートは彩花にとって父兄参観日の台本に他ならなかった。

そして、今日の父兄参観日も元々、彩花の英語の授業を披露する予定であったのだが、智子達の指示で急遽、担任の彩花が特定の議

題について生徒達に語るホームルームに変更されていたのだった。

彩花は、教壇から教室の後ろに立つ父兄達を改めて見ると、父兄達もまた生徒と同じように彩花の姿を訝しげな表情で見つめながら何やら囁き合っているのが分かった。三十人ほどいる父兄は九割が母親で残りの一割がスーツ姿の父親だった。母親達は、若くて美人な担任の女教師のあまりに露出度の高い恰好に、同性としての軽蔑や嫉妬の眼差しを向けている者が多かった。母親達が囁き合う声はさすがに彩花の元までは聞こえてこなかったが、その様子からおそらく彩花の教師にふさわしくない服装について批判しているのは感じ取れた。

あぁ、どうしよう・・・。私、お母さん達に変な目で見られてるわ。彩花は教卓の陰で脚をガクガク震わせながら、それでも台本通りに授業を進行していくしかなかった。

■海老沢薫ＢＬＯＧ

・・・最新作の出版情報や、そのほか各種コンテンツ情報などを配信。

https://ebisawakaoru.blog.2nt.com/

■そのほかＳＮＳ

https://x.com/ebisawa_K

https://www.instagram.com/kaoru_ebisawa/

https://www.pixiv.net/users/70200870

■海老沢薫Ｗｅｂ連載小説

『清楚な美人妻　彩２７歳　絵画モデル編』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=9281

『清純派女優　結衣２４歳－国民のペットへと堕ちていくヒロイン－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18802

『清純派女優　結衣２４歳－女神の憂鬱－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=26675

『女教師　玲奈２５歳－女性教諭の前代未聞の不祥事－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=17186

『美人社長　里帆２６歳－若き女社長のプライドを砕く屈辱の契約－』

https://regimag.jp/bo/book/detail/?book=18885